

# 木材需給動向について (東北地区)

---

令和2年7月  
林野庁

# 目次

## 1 価格の動向

### (1) 原木価格

#### ①直近の価格推移（原木市場・共販所）

スギ（東北地区・全国）

#### ②過去の価格推移との比較

### (2) 製品価格の推移・動向

## 2 生産等の動向

### (1) 原木生産の動向（東北地区）

### (2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

#### ①製材（全国・東北地区）

#### ②合板（全国）

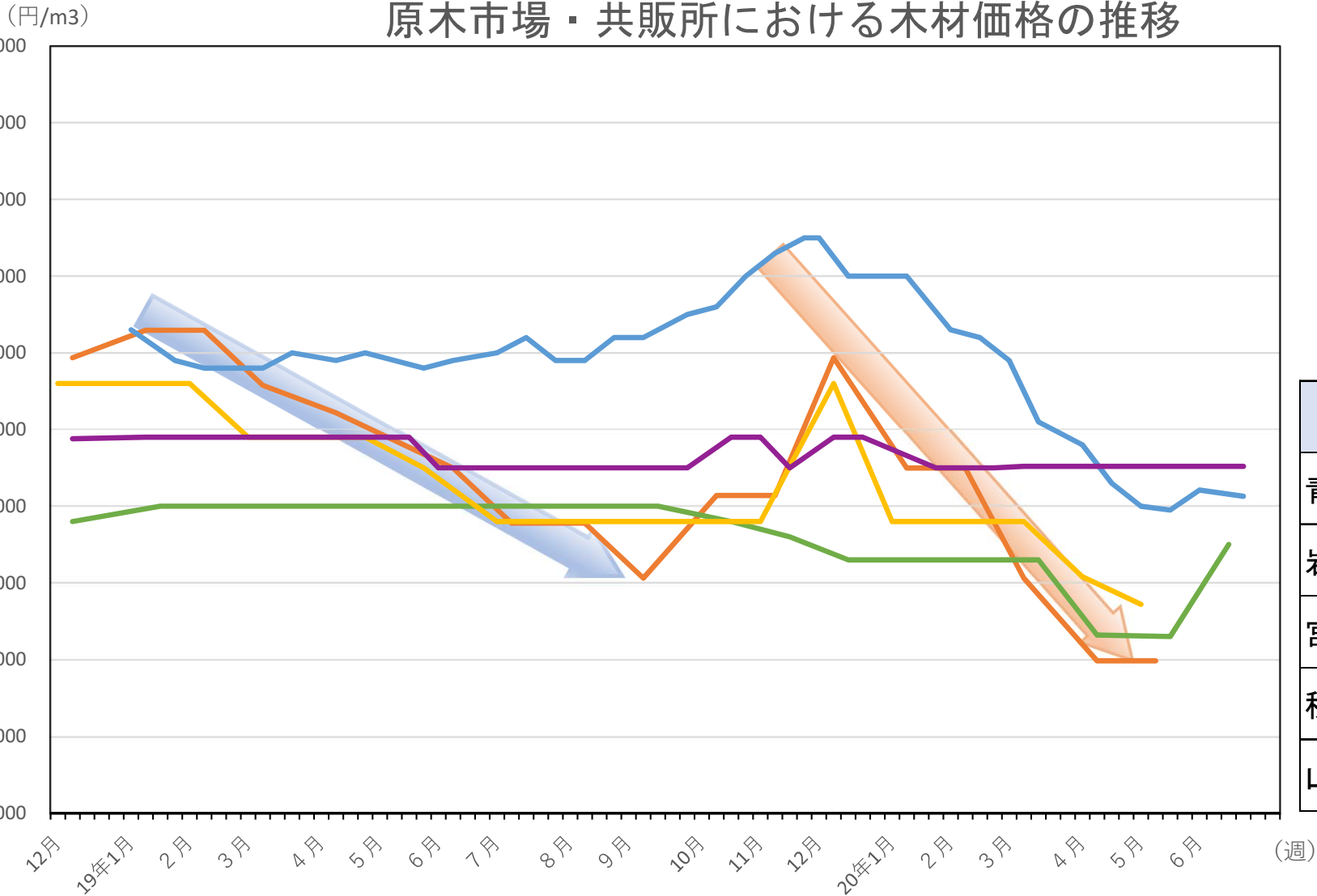
#### ③木材加工の動向（東北地区）

## 3 住宅着工戸数の推移

## 4 主要木材の需給見通し

# 1 価格の動向 (1) 原木価格 ①直近の価格推移 (原木市場・共販所) スギ(東北地区) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年12月から梅雨時期頃まで原木価格が下落する傾向にあるが、本年は**下落幅が大きく、急**となっている。
- ・ 本年6月のスギ原木価格は、**対前年比0~24%の下落**。
- ・ 岩手県では価格が反転し、**底入れの兆し**がみられる。



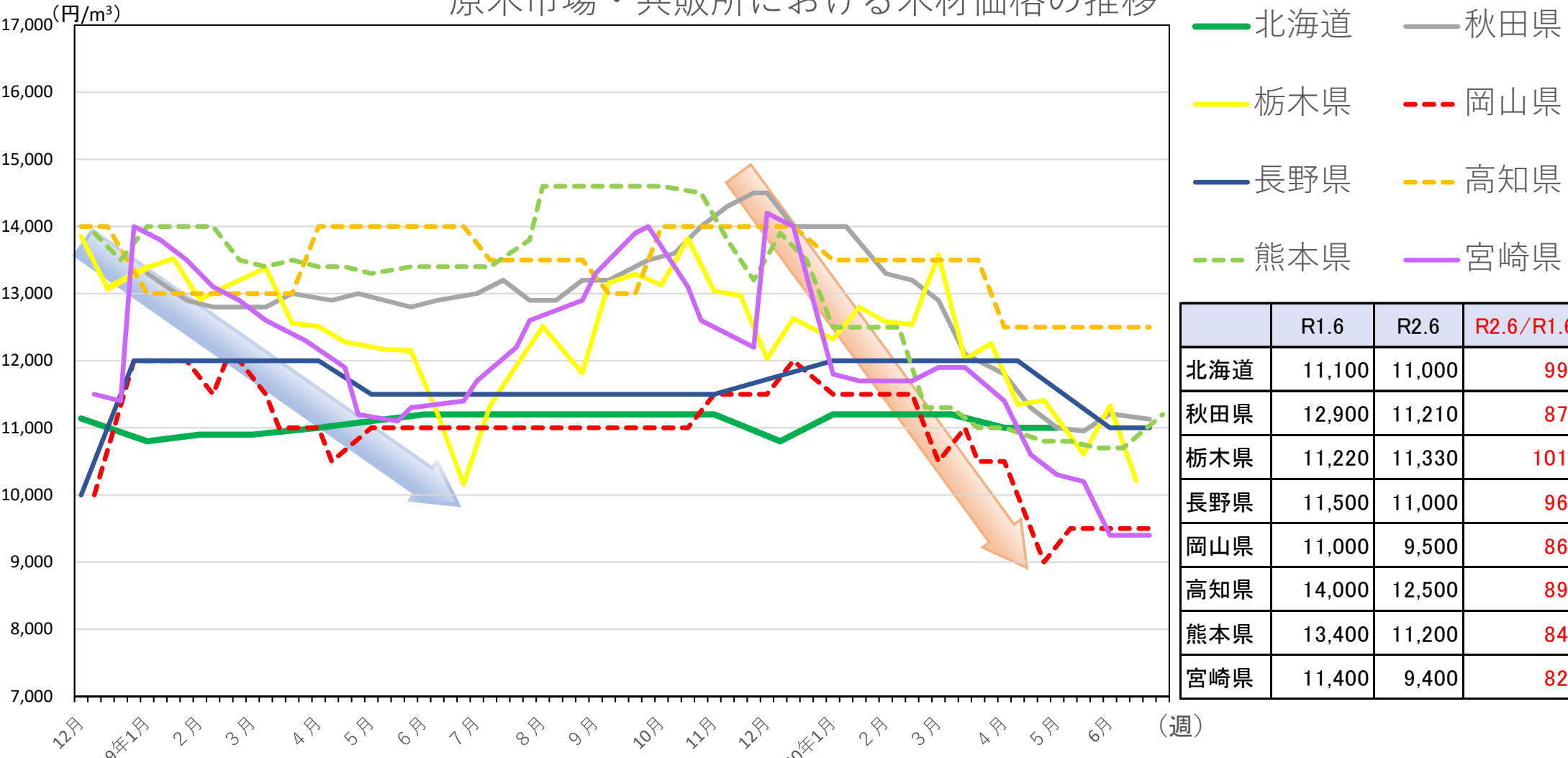
注1：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。  
資料：林野庁木材産業課調べ

# 1 価格の動向（1）原木価格 ①直近の価格推移（原木市場・共販所）

## ア) スギ（全国） φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きく急となっている。
- ・ 本年6月のスギ原木価格は、**対前年比18%減～1%の増**。

原木市場・共販所における木材価格の推移



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65～4mの中目原木。

注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。

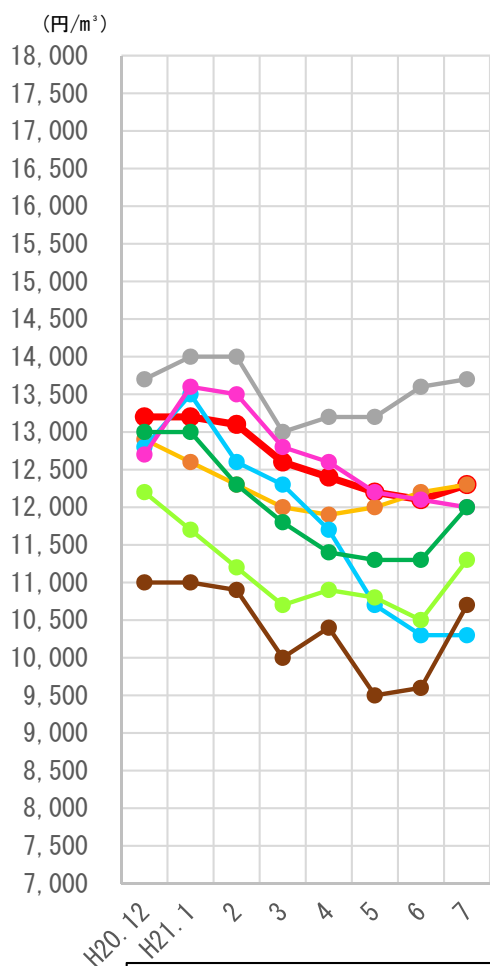
資料：林野庁木材産業課調べ

## ②過去の価格推移との比較 (スギ中丸太φ24~28cm、3.65~4.0m)

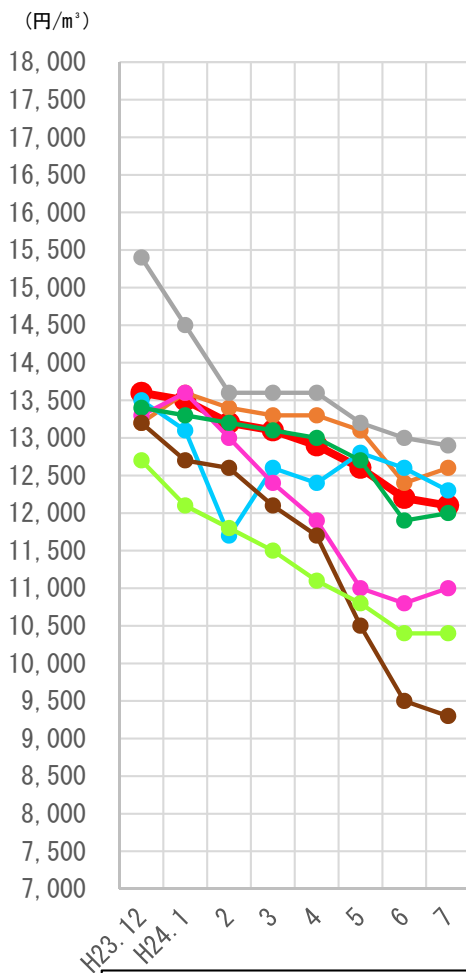
過去に原木価格の下落幅が大きかった時期と比較すると、

- ・ 為替の影響で近年、**価格は高く推移**。
- ・ 大分県、宮崎県など**生産量の多い地域ほど下落幅が大きい**傾向。
- ・ 本年6~7月にかけて**価格の底入れ**があるかどうかを見極める必要。熊本県、大分県では兆しが見られる。

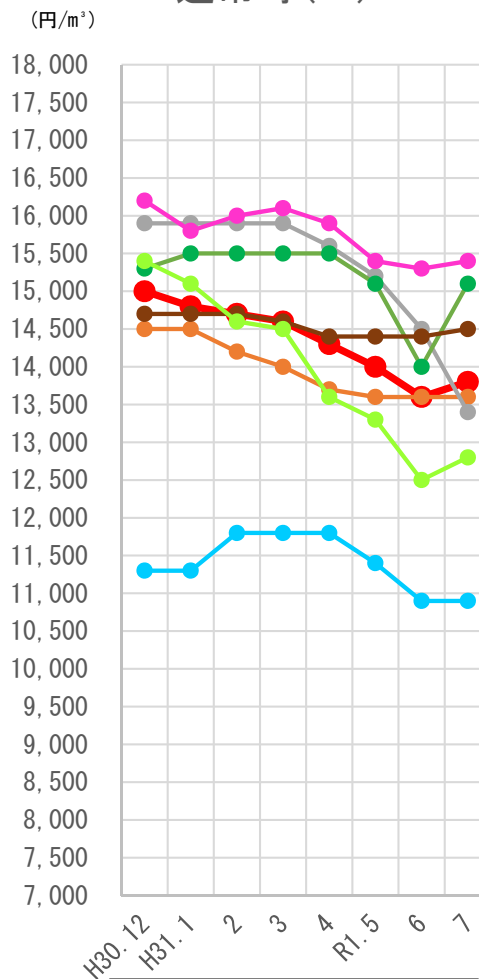
### リーマンショック (H21)



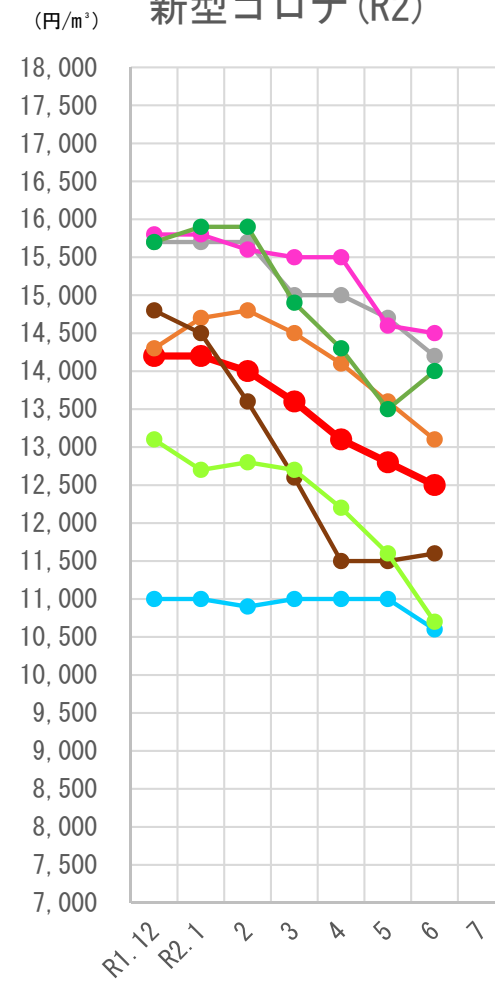
### 欧州円高 (H24)



### 通常時 (R1)



### 新型コロナ (R2)



● 全国 ● 秋田県 ● 栃木県 ● 岡山県 ● 愛媛県 ● 熊本県 ● 大分県 ● 宮崎県

## (2) 製品価格の推移・動向

- ・ 製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は**価格の下落**が見られる。
- ・ 住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

### ○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m<sup>3</sup>]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	→55,000	▲ 3,000
首都圏	54,000	→53,000	53,000	53,000	53,000	0
大阪	55,000	55,000	→54,000	54,000	→52,000	▲ 2,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	→60,000	→55,000	▲ 5,000
九州	52,000	→50,000	50,000	→48,000	48,000	0
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	0

### ○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m<sup>3</sup>]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
首都圏	66,000	→65,000	65,000	65,000	65,000	0
大阪	64,000	64,000	→63,000	63,000	→61,000	▲ 2,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	→63,000	▲ 2,000
九州	62,000	62,000	→61,000	61,000	61,000	0
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	0

※九州のみ120×120×3000mm

### ○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	0
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	0
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	-	-
広島	1,900	→1,880	1,880	1,880	→1,860	▲ 20

### ○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	0
首都圏	1,050	→1,030	1,030	→1,010	→ 980	▲ 30
大阪	1,050	→1,010	→1,000	→ 990	→ 950	▲ 40
名古屋	1,050	→1,020	1,020	→1,000	-	-
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	-	-
広島	1,070	→1,050	→1,030	1,030	→1,000	▲ 30

## 2 生産等の動向

### (1) 原木生産の動向（東北地区）

素材生産事業者への影響について、

- ・出荷状況は、製材・合板工場の受入制限が長期化しており、依然として厳しい状況。
- ・原木販売価格は、多くの県で下落する傾向にあり、経営への影響が懸念。
- ・事業者は、可能な範囲で、保育等への作業種へ振替を実施。

#### ○原木の出荷状況、販売価格

【4月時点】  
素材生産事業者の4割  
（全国ベース）が、既に  
出荷状況が悪化と回答



【5月以降】  
東北地区においても、  
原木滞留や素材生産の  
見合わせ等が発生



【現在】  
合板工場、製材工場の受入制限  
が長期化。素材生産事業者の経  
営への影響が懸念される状況

#### ➤ 具体的な声

- ・工場等が減産体制に入っており、原木入荷を制限。行き場の失った原木が山土場に滞留している。
- ・滞留している原木の品質低下が懸念される。
- ・原木販売価格が低下傾向にあり、採算性が悪化。

#### ○作業の移行状況

#### ➤ 具体的な声

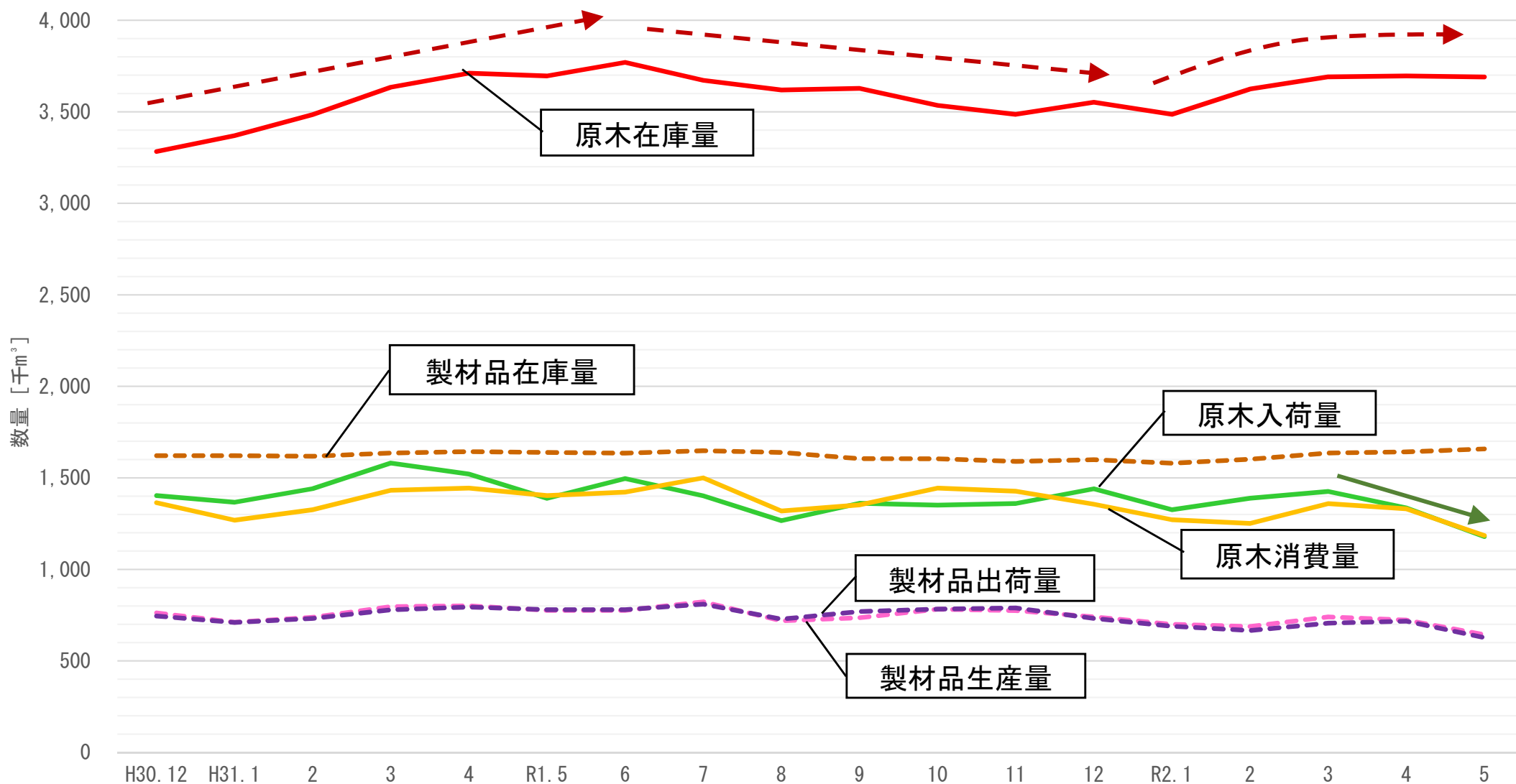
- ・原木生産以外の保育等に作業を振り替えている。
- ・原木生産を減らしたいが、林業機械のリース料など固定費の支払いのために、原木生産を止められない。
- ・雇用維持への影響が懸念される。

## (2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

### ① 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・ 製材品の生産量、出荷量、在庫量は年間を通じて大きな変化はない（グラフの破線部分）。
- ・ 原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・ 現在、**原木の入荷量・消費量は減少のトレンド**、**在庫量は増加のトレンドから横ばいに移行**しつつある。



資料：農林水産省「製材統計」

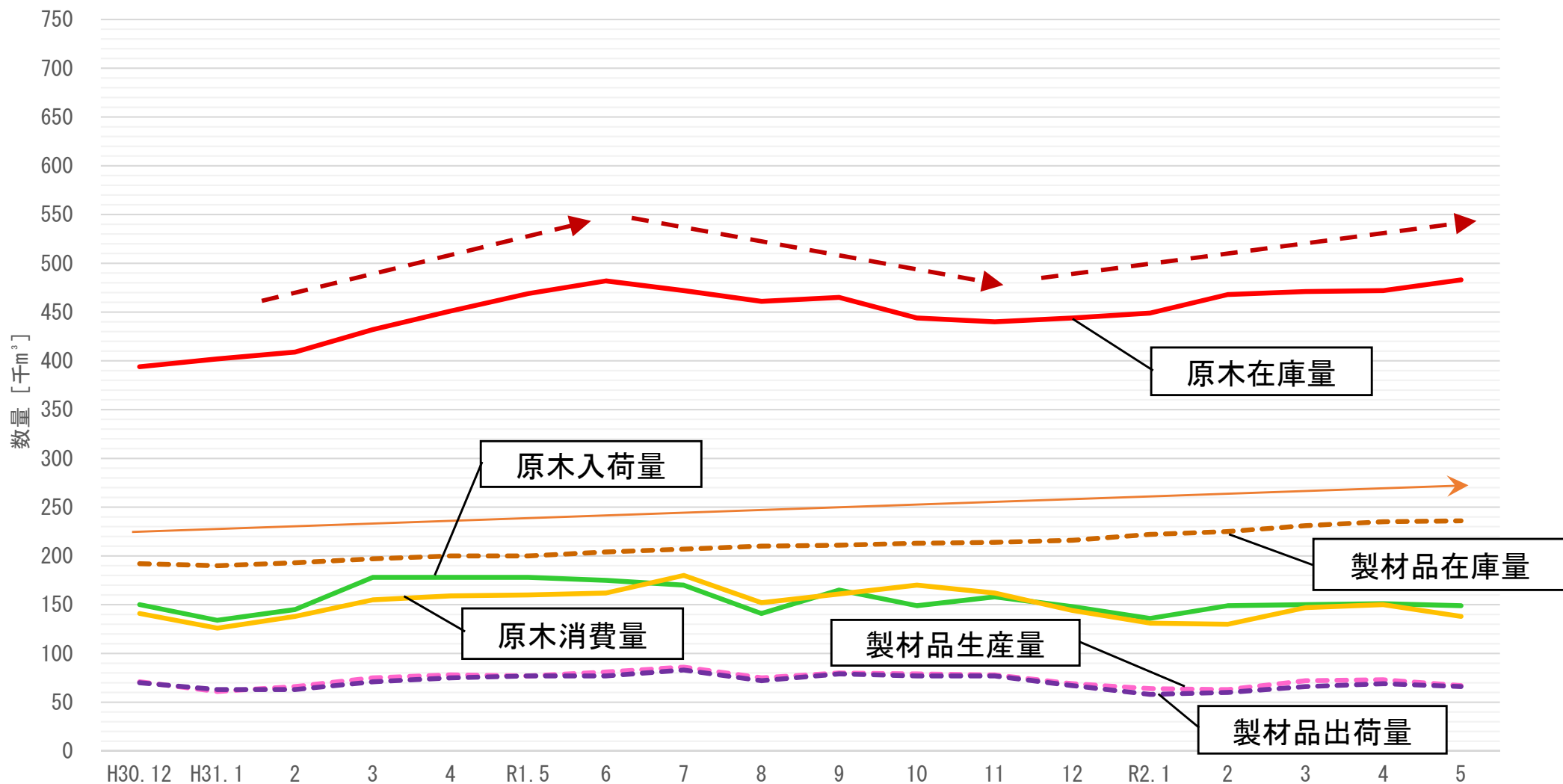


## (2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

### ① 製材 (東北地区)

「製材統計」によると、東北地区では

- ・製材品の生産量、出荷量は若干の季節変動が見られるものの概ね横ばい、在庫量は僅かながら上昇傾向にある。
- ・原木の入荷量と消費量は季節変動が見られるものの概ね横ばいで推移、在庫量は半年単位で増減を繰り返しており、現在増加のトレンドにある。

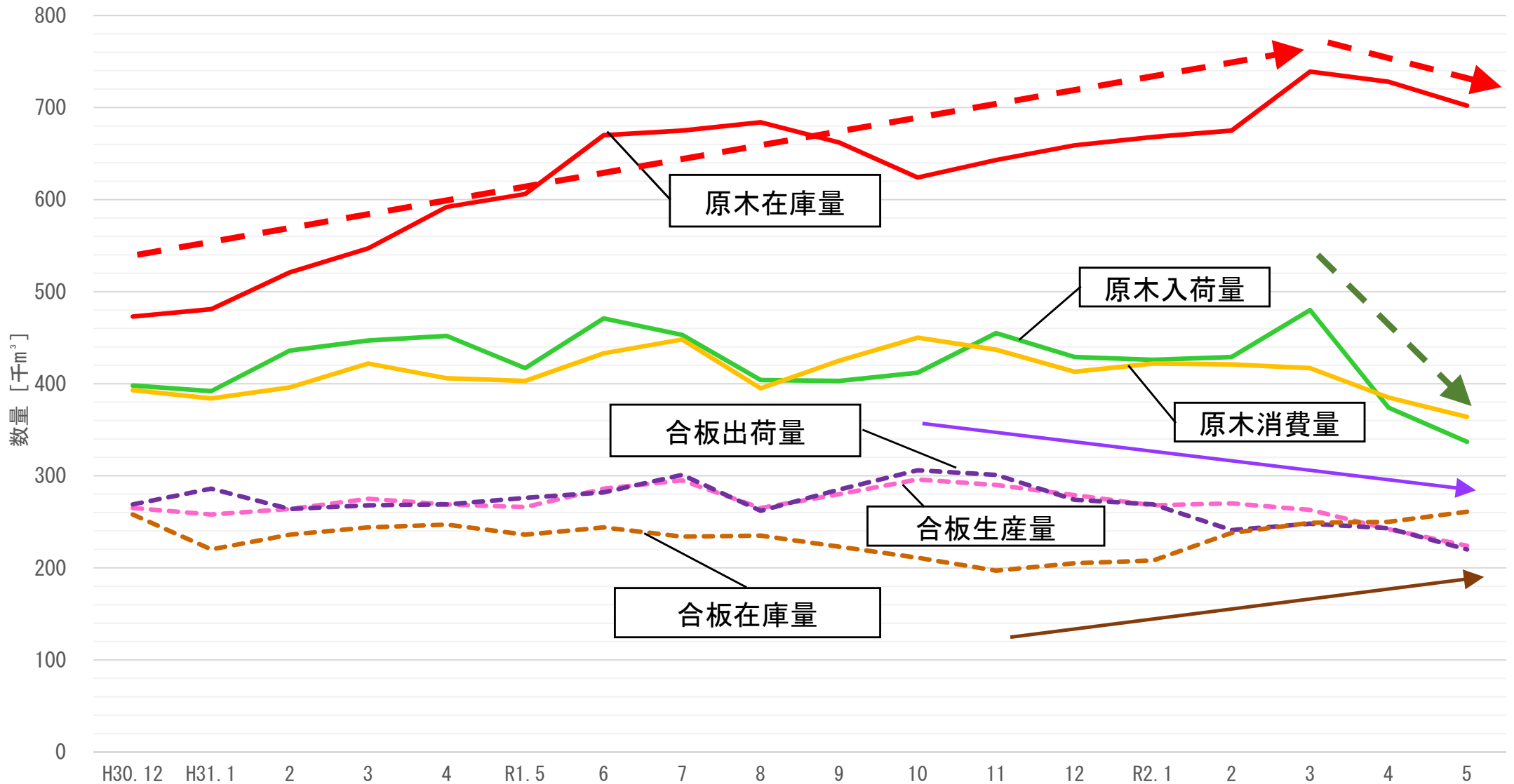


資料：農林水産省「製材統計」

## ②合板（全国）

「合板統計」によると、

- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にある一方、在庫量は増加傾向（グラフ下部破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返しているが、4月以降の入荷量は急激に減少。
- ・原木の在庫量は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、3月以降再び減少傾向にある。



### ③木材加工の動向（東北地区）

製材・合板工場等への影響について、

- ・ 4月以降継続して、減産している工場が多い。更に現在は、一部で20%を超える減産を実施している工場も
- ・ 製品の減産に伴い、原木の入荷制限を継続。また、一部の工場で、入荷制限の割合を引き上げ。

#### ○製品販売の状況

【4月時点】

- ・ 製材工場のうち4割
- ・ 合板工場のうち6割の工場が減産（東北ベース）

【5月以降】

製品販売不振のため、減産を継続

【現在】

減産を継続。  
さらに、一部の工場では20%を超える減産を実施

➤ 具体的な声

- ・ 大手製材工場では4月末から減産操業している。
- ・ 中小の製材工場で関東方面への売上げが3割程度減少している。
- ・ 住宅建築需要の減退に伴う、製品の需要衰退が懸念。
- ・ 梱包材の注文も減少している。

#### ○原木の状況

【4月時点】

- ・ 製材工場のうち2割
- ・ 合板工場のうち5割の工場が原木入荷を制限（東北ベース）

【5月以降】

減産に伴う、入荷制限を継続

【現在】

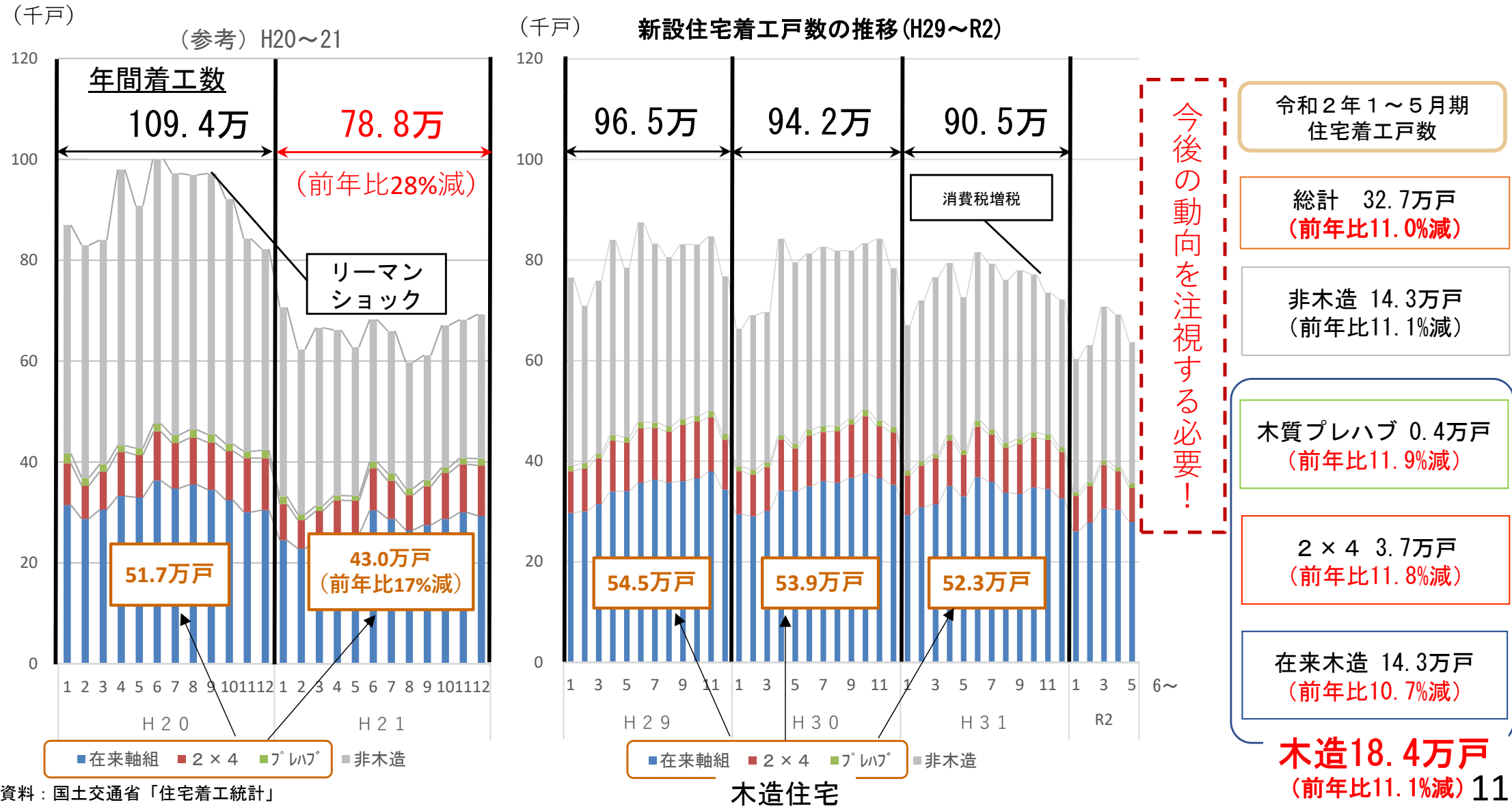
入荷制限を継続。  
また、一部の工場で入荷制限の割合を引き上げ

➤ 具体的な声

- ・ 合板工場が原木入荷を制限している。

### 3 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年5月)

- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、木造住宅は52.3万戸（57.8%）。
- ・ 令和2年度1～5月の木造住宅着工戸数は、18.4万戸（前年比11.1%減）。
- ・ 緊急事態宣言が発令期間中、住宅メーカー等では営業時間を短縮、訪問打合せを中止しており、住宅展示場の来場者が激減するなど、大手・注文住宅の受注機会が大幅減少。今後の着工の動向を注視する必要。



## 4 主要木材の需給見通し（平成31年第1四半期～令和2年第4四半期）

林野庁が主催する木材需給会議では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・製材用丸太は、第2四半期（4～6月）に前年同月比77.2%と大きく落ち込んだが、その後は持ち直す。
- ・合板用丸太も同様に、第2四半期に87.6%と落ち込んだが、第4四半期に増加に転じる。
- ・合板は、第2四半期に88.9%と落ち込んだが、第4四半期に増加に転じる。
- ・集成材は、欧州からの輸入環境の悪化から、第3四半期以降大きく落ち込むと見通す。

（単位：千m<sup>3</sup>）（下段は前年同期比）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品 計	合板		構造用集成材	
			国産材		計		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用		計				
令和元年 (平成31年)	4-6月	実績	3,366	1,256	827	1,567	821	614	475	210
			103.1%	108.4%	104.1%	94.8%	100.8%	79.2%	102.2%	92.1%
	7-9月	実績	3,046	1,190	658	1,501	841	589	490	218
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	10-12月	実績	3,324	1,212	715	1,352	865	648	505	214
99.1%			102.5%	97.1%	94.2%	106.4%	83.6%	109.8%	111.4%	
年計			13,108	4,839	3,026	5,795	3,324	2,535	1,915	839
			103.3%	108.1%	94.0%	94.4%	103.3%	86.7%	105.5%	103.2%
令和2年	1-3月	実績	3,222	1,217	649	1,261	801	633	460	212
			95.6%	103.1%	78.6%	91.7%	100.5%	92.5%	103.4%	107.6%
	4-6月	見込み	2,600	1,100	619	1,315	730	612	465	220
			77.2%	87.6%	74.8%	83.9%	88.9%	99.7%	97.9%	104.8%
	7-9月	見通し	2,700	1,100	625	1,250	730	546	365	250
			88.6%	92.5%	95.0%	83.3%	86.8%	92.7%	74.5%	91.8%
10-12月	見通し	2,700	1,180	669	1,255	780	540	365	190	
		81.2%	97.4%	93.6%	92.8%	90.2%	83.3%	72.3%	88.8%	
年計			11,222	4,597	2,562	5,081	3,041	2,331	1,655	872
			85.6%	95.0%	84.7%	87.7%	91.5%	92.0%	86.4%	104.0%